

田中 美貴子

6月定例会

一般質問しました



1 子どもの育ちを支える施策について

Q.質問 「赤ちゃん学」を体系的に取り入れた育児、不安解消の一助となる取組を進めるべきと考えがどうか。

A.答弁 子育ては本来楽しく、興味深いものであることを、「赤ちゃん学」などの科学的知見も踏まえながら、子育て世代に対し丁寧に伝え、共感を広げていきたい。子どもが健やかに育ち、子どもの笑顔があふれる子育て環境日本一の実現に向け、取組を進めております。

Q.質問 子どもの「うつ」が増えつつある。今年度から市町村が設置する教育支援センターへ専門家を派遣するなど、様々な施策を実施する中での課題や今後の対応方針はどうか。

A.答弁 今年度、不登校児童生徒支援の拠点を形成するべく、教育支援センターを設置する市町村のうち8市町にスクールカウンセラー等を配置するなど支援の一層の充実を図っている。教員の資質向上や各市町村の教育支援センターにおける相談機能の拡充など、子どもたち一人一人の豊かな学校生活の実現に努めて参ります。

2 DV基本計画の改定及びシェルター支援について

Q.質問 「配偶者等からの暴力の防止及び被害者の保護・自立支援に関する計画」の改定に至る視点や今後のDV撲滅に向けた思いはどうか。

A.答弁 デートDV冊子の中学校授業活用など、年代に応じた暴力防止の教育・啓発、面前DVを行った保護者への指導支援の強化、一時保護所退所後の訪問継続支援の実施などに取り組む。さらに加害者対策を新たに実施する。

Q.質問 DVシェルター施設における状況はどうか。また、今後の支援方針はどうか。

A.答弁 DV被害者の避難保護施設として、公的施設の家庭支援総合センターに定員20名の一時保護所、北部地域での緊急保護などのため、福祉施設10箇所に一時保護の委託をしている。また、民間シェルターは2施設あり、官・民の施設が連携して支援にあたっている。平成18年から運営助成を実施している民間シェルターは小規模でありその財政基盤は弱く、今後更に入所者の状況など情報共有を図るとともに、シェルター職員の人材育成支援などの連携を強化する。計画に基づき、あらゆる暴力を許さない社会の実現に向けて取組を進めていく。

3 外国人観光客及び労働者の対応について

Q.質問 府警の外国人が多い地域の交番にタブレットを配備は機動性に欠けるとも考える。他にも外国人対応策を実施してきたが、これまでの効果や課題及び今後の対応方針はどうか。

A.答弁 今春からスマートフォン型データ端末を、今年度中に翻訳機能が付与される予定としている。通訳人や民間の外国語コールセンターを24時間体制で運用「おもてなし通訳人」として運用しているほか、人的基盤の強化にも努めている。今後も、語学力の底上げなど、組織をあげて対応能力の向上に取り組んでいく所存であります。

Q.質問 外国人労働者受け入れに伴う犯罪対策はどうか。

A.答弁 悪質な仲介事業者による、就労制度を悪用した違法ビジネス等の増加が懸念される事に対し、「京都府外国人材受け入れ・共生推進本部」に参画するとともに、京都府警察及び出入国在留管理庁を始め関係行政機関をメンバーとする「京都府外国人労働者問題対策幹事会」を開催し、緊密な情報交換等を行っている。今後、外国人受け入れ企業を含めて、一層の情報共有を進め、外国人労働者の受け入れに伴う違法行為に対する取締りを強化していく。



子どもを産み育てる事の楽しさを、もっともっと皆さんと共有したい。面前DVやネグレクトで、辛い思いをしている子ども達との出会いが、私の議員活動の原点。今こそ、「赤ちゃん学」を学ぶ事によって、子どもは社会の宝、未来への希望と、皆さんと一緒に広めていきたいと思っております。



赤ちゃんにつながる…
赤ちゃんの不思議世界、
人のはじまりを知ろう！

田中議員が一般質問で取り上げた、

赤ちゃん学って何？



胎内でのリズムはどんな作用が？
どうやって言葉を覚えるの？
色々なものを食べられるようになるには？



BABY SCIENCE

～赤ちゃん学～

“人のはじまり”としての赤ちゃんを総合的に、そして多面的な視点からとらえるために広い研究分野を融合した新しい学問です。

どんな世界が見えてるの？

こういった学びを皆様と供に考える機会を、シンポジウムの開催等で広めていきたいと考えています。

文部科学省 共同利用・共同研究拠点
同志社大学
「赤ちゃん学研究センター」

“赤ちゃん目線を忘れない
センターであり続けたい”



赤ちゃん学
コーディネーターの小野さん

〒619-0225
木津川市木津川台4丁目1-1 同志社大学学研都市キャンパス(快風館)内
TEL:0774-73-1917